



Fresenius Medical Care

2006年5月11日

2006.5.11 フランス・Prof. Bernard Canaud らは DOPPS スタディ (The Dialysis Outcomes and Practices Patterns Study) にて、高効率HDF (血液透析ろ過) 療法により通常HD (血液透析) 療法と比較して相対死亡リスクが35%低下した、と発表しました。

腎臓疾患患者のうち、血液透析ろ過 (HDF) を受けている患者の死亡率は従来の血液透析に比較して格段に低い。これは、フランスの腎臓 Prof. Bernard Canaud の指導のもと、モンペリエの Lapeyronie 大学病院の専門家により行われた新しい研究の結果である。この研究は、置換液量を 15~24.9L 使用する高効率 HDF (血液透析ろ過) による治療を受けている患者の死亡率が通常の HD (血液透析) による治療を受けている患者と比較して 35%低下したと示している。この研究は、ヨーロッパ 5 カ国で平均週 3 回の治療を受けてきた 2,165 名の患者が参加し得られた DOPPS スタディによるものである。

(注 ; DOPPS=the Dialysis Outcomes and Practices Patterns Study, 血液透析の治療方法と患者の予後についての調査)

これは、年齢や既存疾患といった複数の影響因子を取り除くための補正をかけて、「HDF 療法が慢性腎不全患者の死亡率を下げる」ということを証明した、初の大規模観察研究である。既存データを使用して HDF のポジティブな効果は示唆されていた。専門家は、HDF により生存率が改善される要因として、血液の有害物質の効果的な除去・副作用発生率と心疾患系疾病リスクの低減を挙げている。心血管系の合併症は、透析患者においても主要な死亡原因となっている。

フレゼニウス メディカル ケア ジャパン株式会社